

氏名	加 藤 信		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 4 9 7 号		
学位授与の日付	昭和47年 3 月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	ステロイドホルモン関節内注入に関する研究 —リウマチ膝関節におけるステロイドホルモン注入後の 関節液の性状の変化とその臨床効果—		
論文審査委員	教授 田中早苗	教授 砂田輝武	教授 山崎英正

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

RA 患者で膝関節に活動性炎症を有する 56関節を使用してステロイドホルモン関節後の関節液総量、総蛋白、有核細胞数に対する多形核白血球比、ムチン、カタラーゼ、酸性フォスファターゼの経時的な変化および関節液中のステロイドホルモン結晶の喰食および消退を観察した。

- (1) 総蛋白は注入後10分より変化をはじめ、有核細胞数に対する多形核白血球比は1時間後より変化がみられ、臨床効果とつよい相関性を示した。
- (2) ムチン、タカラゼ試験は10分後より変化をはじめ。そして前者ほどはっきりした傾向を示さないが、関節の炎症度とは関係がある。
- (3) 関節液中のステロイドホルモン結晶の喰食および消退は、注入後10分ですでに多くの製剤が細胞内にとり込まれており、3時間後ではほとんど消退している。ステロイド剤の結晶形態を偏光顕微鏡を用いて観察すれば、一般に結晶の大きい程遊離したものが多く、小顆粒状のものが早くから喰食され、結晶形の大きさはその喰食機構に相当大きく影響するものと考えられる。
- (4) 56例中のはっきりした Post injection flare up はなく、わずかに諸検査で炎症度の増悪をおもわず例があった。

(「リウマチ」11. 4. 295. 1971 に掲載)

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

ステロイドホルモン関節内注入に関する研究で、本療法の副作用たる crystal induced synovitis の病態について分析・解明し、その使用について重要な新知見を得たものとして価値あるものと認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があるものと認める。